

グローバリズムとローカリティのはざままで ～現代アートの視点から～

実践女子大学 アート・コミュニケーション研究所
公開レクチャー・シリーズ ②

2018年1月20日 (土) 17:00~19:00

実践女子大学渋谷キャンパス120周年記念館 602教室



森 弘治 (もり ひろはる) 氏

映像作品を中心に現代美術の分野で活動。主な展覧会に、第3回恵比寿映像祭、越後妻有アートトリエンナーレ2009、第52回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際企画展、原美術館「アーツコープ2005/2006」、ジュ・ド・ポーム国立ギャラリー「The Burlesque Contemporains」などがある。2016年には「MOT アニュアル2016:キセイノセイキ」展のディレクションとキュレーションを主導する。また、2009年にアーティストによる芸術支援システム「ARTISTS` GUILD」を設立。東京芸術大学などで教えたのち、AITで教鞭を取っている他、アートの実践教育プログラム開発にも携わる。2016年3月より1年間米国MITにて客員研究員として研究に従事し、2017年春帰国。

昨今、様々な場面で耳にする「グローバリズム」。私たちはどのようにこの現象を捉えているのでしょうか。海外で豊富な経験を持つアーティストの立場から、その今日的な意味を紐解いていきます。さらにローカリティとの比較の中から「個人のアプローチが世界に紐付いているという自覚」をする必要性があるのではと考えます。個人が世界につながるといことがどのようなことなのか、アートを表現することとの関係性など、自身の芸術実践を交えて紹介します。

【スケジュール】

17:00~18:30 レクチャー

10分休憩

18:40~19:00 質疑応答

【聞き手】

下山 肇 実践女子大学 文学部美学美術史学科 准教授 (デザイン)